

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年6月分）

【製造業】

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数が前月比2.1%と上昇。ヒアリングでは、自動車や工作機械等の関係が好調であるとの声があったものの、半導体不足の影響が当地区の企業にも出始めており、先行きを不安視している旨の声が聞かれた。

【地場産業】

- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数が、パルプ・紙と窯業・土石、繊維工業で低下したものの、食料品で横ばい、木材・木製品、家具で上昇した。ヒアリングでは、木工や家具業界は巣ごもり需要の恩恵を受けているとの声が挙がった一方、繊維工業からは売上が半減し赤字が続いている、との非常に厳しい声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、5月の金属工作機械受注額は、国内、海外向けともに前年を上回った。ヒアリングでは、IT関連や製造工程の自動化といった分野の設備投資の動きが見られ始めた。

【個人消費】

- 個人消費は、5月の販売額は、コンビニで前年同月比4.1%、百貨店・スーパーで同0.6%と増加したものの、ホームセンターで同▲10.0%、ドラッグストアで同▲5.4%、家電大型専門店で同▲1.2%と減少し、全体では同▲1.5%と減少した。ヒアリングでは、客足の回復が鈍いため客単価を上げることができるような取り組みを強化している、との声が聞かれた。

【観光】

- 観光は、不要不急の外出や県をまたぐ移動の自粛が要請されたことも影響し、5月の客数は観光地、宿泊施設ともにコロナ前の前々年同月を下回った。宿泊施設からのヒアリングでは、6月、7月ともに予約に動きがなく、休館日を設定している、など厳しい声が多くあった。

【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、5月の制度融資実績は、件数、金額ともに前年同月比で減少した。減少に転じたのは、それぞれ15ヶ月、18ヶ月ぶり。金融機関からのヒアリングでは、国の事業再構築補助金等の公的支援の効果により、借入需要は弱まっているとの声や、実質無利子・無担保融資によって手元資金に余裕があることも影響して、企業は新たな資金調達に消極的になっているとの声が聞かれた。

【雇用】

- 雇用面は、5月の有効求人倍率が1.36倍と4ヶ月ぶりに上昇した。ヒアリングでは、他社から出向人材を受け入れている企業の動きや、人手の余剰感が薄らいでいるとの声が聞かれたが、雇用調整助成金が終了すると人員整理を検討せざるを得ない企業もある、との厳しい声も聞かれた。

【景気動向】

4月の景気動向指数（一致指数）は前月比で2.1ポイント上昇したが、5月の中小企業の景況感は前月比▲6ポイント低下した。